

路面電車で さっぽろを元気に!

～検討会議の提言まとまる

昨年2月に存続が決定した路面電車。

「交通機関」としての価値はもちろん、

「まちや市民を元気にする道具」としての価値にも着目しながら、
これからの活用方法を考えていく必要があります。

今回は、昨年8月から路面電車の活用について検討してきた

「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」が
まとめた提言と併せて、
すでに始まっている取り組みを紹介します。

路面電車についての検討状況が分かるホームページ。

提言書の詳細な内容も見られます

www.city.sapporo.jp/sogokotsu/shisaku/romen

このページに関するお問い合わせは 交通企画課 ☎211-2492



これまでの経緯

17年2月 存続が決定

17年8月 検討会議の設置

18年9月 提言がまとまる

赤字経営のため、14年度以降、存廃が議論されていた路面電車ですが、市民アンケートやフォーラムなどを通じて広く市民議論を行い、存続することが決定しました。

【理由】

1. 市民の存続意向が強い
2. 民間活力の導入などにより収支改善が望める
3. 都心のまちづくりに生かせる
4. 人や環境に優しい

市民や有識者など13人から成る「さっぽろを元気にする路面電車検討会議」を設置し、路面電車の活用策を検討してきました。

約1年にわたる議論の末、検討会議の提言がまとまり、9月15日、市に提出されました。

市長に提言書を提出する→
さとうけいち
佐藤馨一委員長(左)



検討会議からの提言!

「さっぽろを元気にする路面電車活用のあり方」の概要

提言 その1

収支改善と利用促進への取り組み

早急に収支改善に取り組むべきであり、沿線施設と連携したサービス提供などによる新しい利用者の掘り起こしなどが必要である。

高齢社会の進展に対応したバリアフリーなまちづくりの実現に向け、誰もが安全で気軽に乗降できるよう低床車両を導入すべきである。

さまざまな事業連携などを通じ、藻岩山などの施設を有効に活用し、観光促進をはじめとする経済の活性化につなげていくべきである。

- ラッシュ時の利用実態などを踏まえた朝・夜間の増便
- 沿線施設などでの時刻表の掲示によるサービスアップ
- 嘱託運転手の採用拡大などによる総人件費の圧縮
- 車体全体に広告をペイントした電車の増車 など

始まっています!
収支改善の
取り組み

